

友達100人の呪縛

暑く長かった夏の勢いもさすがに弱まり、10月になりました。2期制の本校では、前期卒業式で5名の卒業生の旅立ちをお祝いし、後期入学式では15名の新入生を迎えました。新入生のみなさん、不安や緊張も大きいかとは思いますが、わからないことは遠慮せず周囲に尋ねてください。周りのみなさんも、新しい仲間が早くこの環境に慣れることができるよう、思いやりを持って接してあげてください。

さて、みなさんは「友達100人の呪縛」というのを知っていますか。

「友達100人」は、童謡「一年生になったら」に出てくる有名なフレーズですね。

♪一年生になったら ともだち100人 できるかな

100人で 食べたいな 富士山の上で おにぎりを

です。一方「呪縛」とは「呪い・縛る」と書きます。「まじないの力で動けなくすること」、転じて「心理的な圧迫で、心や体の自由を奪う」という意味です。この、一見あまり関係なさそうな言葉がつながった「友達100人の呪縛」について、今日はお話します。

みなさんのように学校に通っている人だけでなく、大人になって働いている人の中にも友達が少ないことに悩んでいる人は意外といて、さらにその中の結構な割合が「友達100人できるかな」に影響を受けているともいわれています。つまり、幼い頃からこうした歌や周囲の言葉から、「友達は多い方がいい」「友達の多い人はいい人だ」と刷り込まれてしまい、人間関係のあり方について自由に考えられなくなっている、これが「呪縛」です。

では、そもそも「友達が多いこと」は本当にいいことなのでしょうか。ここは一度、しっかり疑ってかかりたいところですね。現実的に100人は大げさだとしても、あまりにたくさんの交友関係を持ってしまうと、その一人ひとりと十分な時間がとれないとか、逆に自分の時間がなくなってしまうとか、少し考えてもいろいろ不都合がありそうです。また、そもそも「友達とは何か」を考えたとき、「気が合う」とか、「損得抜きで付き合える」とか、「お互いを思いやれる」とか、たくさんの人数に対してそんなこと簡単にできませんよね。「お互いの価値観の違いを認め合う」といったレベルになってくると、友達といってもずいぶん絞り込まれてきます。

もちろん、「友達はたくさんがいい」という考えがあってもいい。でも、「友達も量より質」という考えもまた、同じようにあっていいと思うんです。その質も多様性が大切という研究結果もあるそうです。学校の他に地域や趣味、バイトの職場など、様々な場面で数は少なくとも誠実な「つながり」があることに意義があるそうです。ここでもやはり、多様性がキーワードになるんですね。多様性、大事ですね。

もうずいぶん前に聞いた話で、出典とか、細かな表現とかははっきりしないんですが、確かフランスの子どもたちが初めて学校に行くときによく言われる、という言葉を紹介して今日のお話の最後とします。

「ただ一緒にいるだけの友達が数多く求めるのではなく、たった一人でもいいから、自分と相手との違いを認め、尊重してくれる友達をつくりなさい」

「友達100人の呪縛」を解くのに十分な、私の好きな言葉です。

それではみなさん、後期も支え合い、励まし合い、お互いを思いやりながら、乗り切っていきましょう。

令和4年10月4日

兵庫県立西宮香風高等学校
校長 谷口 暢謙